

令和6年度 第2回 丹波市立図書館協議会 会議録（要旨）

◇日 時：令和6年12月24日（火）

◇開 会：午前10時00分

◇閉 会：午後12時30分

◇会 場：丹波市立中央図書館

◇出席者：（会 長）畑田久祐

（委 員）藤原廣宣・蔦木伸一郎・中澤利恵・由良ゆかり・伏田雅子
中岡恵美・細見能成

（社会教育・文化財課）小畠崇史・高見弘子・嶋崎美紀・古川徳晴

◇欠席者：（委 員）上山未登利・井上直志

1. 開 会

進行：丹波市教育委員会教育部社会教育・文化財課 課長 小畠崇史（以下、課長）

2. あいさつ

丹波市立図書館 館長 近藤利明（以下、館長）

3. 報告・協議事項

以下の事項は、会長の進行による。

（1）第2次「丹波市立図書館のあり方」策定経過について

- ・「市民アンケート」単純集計表（調査票）
- ・「市民アンケート」自由記載欄のみ
- ・「利用者アンケート」単純集計表（調査票）
- ・「利用者アンケート」自由記載欄のみ
- ・市民ワークショップ意見
- ・関係団体ヒアリング意見
- ・こどもたちの意見「こんな図書館あったらいいな」
- ・現行計画の評価検証

説明：図書館係 係長 高見弘子（以下、係長）

資料 1
資料 1-1
資料 1-2
資料 1-3
資料 1-4
資料 1-5
資料 1-6
資料 1-7
資料 1-8

会長

今回の取り組みについて質疑等があればご意見をいただきたい。

委員

アンケートは、今後どういう方針か。毎年1回はされるのか。

課長

利用者アンケートについては、定期的に出るかと考えている。また機会によっては、今回のように団体ヒアリングや「二十歳の集い」等、若い人たちにも意見を聞く事はやっていきたいと考えている。

委員

アンケートの結果はグラフで示すとわかりやすいと思う。この資料の冒頭の、「どの程度利用しているか」という部分は、年代別上位3位を出していると思うが、すべての年代がどのぐらいの割合かを出した方が、課題が見えると思う。今後の協議会の資料や計画の付属資料としても出すということか。

係長

アンケートの報告書の付属資料として公開したい。

委員

全体の総数で見えてしまうと回答数が多い年代に結果が偏るので、もう少し細かく分析をされるとよいと思う。

委員

この会議ではこのアンケートに関してどう思ったかということを発言すればよいのか。

会長

アンケート全体を見てどう思われたかという事も、今日ご意見をいただきたい。市民全体の中から見ると、図書館を利用する人は少ないと感じた。固定客という形ではか図書館を利用されていない。新しく引っ越されてきた方にもアンケートが届いているかはわからないが、無作為に抽出した中でも、その辺の所が出て来ている。行政は頑張っているが、それに比例して市民がそういう方向を向いているかということ、そんな感じではないというのが、今後、図書館をどうしていくのかという課題に繋がっていくだろうと、アンケートの中では感じた。そういう事も含めて、他の委員でどう感じられたかということが、次の課題にヒットしていけるのではないかなと思う。

副会長

この無作為のアンケートで、ほとんど図書館を利用していない人も結構アンケート答えてくれている。これも一つのきっかけで、図書館のことに全く興味もないし、行ったこともない人が、図書館を知る一つのきっかけに、このアンケートはなったのではないかなと思うのと、この膨大なアンケートを集計して、いろんな課題が見えて良かったと思う。今年の7月に中央図書館でライブラリーコンサートがあって、これからの図書館は、本を読みに来る所、本を借りる所、静かにしないといけない所みたいな固定観念があるが、音楽会をしたりと、もっと広い意味で図書館作りが出来るんじゃないかなと思った。

会長

今後のあり方等の素案についても、このアンケートがどういうふうに反映されているのかという事にも関連するので、次に進めたい。

それでは、(2)第2次「丹波市立図書館のあり方」の素案についての協議に入らせていただく。

係長

1 章から 3 章までを、事務局より説明。

(2) 第 2 次「丹波市立図書館のあり方」素案について

資料 2

会長

今、1 章から 3 章までの部分の説明をしていただいた。今回の 1 章から 3 章については、先ほどのアンケート等も踏まえての課題の抽出や、現状という部分が中心なので、ここはちょっとこの書きぶりはおかしいという部分があれば、ご意見をいただきたい。

委員

第 1 次の振り返りの所で、A3 の資料の中にある項目が入っていないものがいくつかあると思う。

課長

大きな括りでまとめているので、それごとに網羅的に書いた方がいいかなという考えであったが、まとめる。

委員

施策 3 の (2) 「資料の収集」の所で、各自治協議会が発行する広報紙を図書館では収集されているか。25 地域の自治協議会の広報誌はどこの地域も発行されていて、大事な地域資料だと感じている。

係長

送ってきていただいた物は登録出来ているが、こちらから働きかけをしていく必要があると思っている。

委員

市民活動課が集約されているので、古いものも遡ろうと思えば、ある程度揃えられると思う。

委員

このビジョンを作成される上で、丹波市には、各旧町に図書館が 1 館ずつあるという状況があるが、今後 10 年間その状況が続くという前提で作られたのか、途中で変更もあり得るという前提で作られたのか教えていただきたい。

課長

はっきりということは政治的、政策的な事もあると思うが、丹波市の特色として、この 6 館の体制をずっと続けているというのが大きな特徴だと思っている。その中で、子どもの読書活動を推進していく上でも、学校図書館との繋がりという事は、一緒にやっていけないといけない事の一つになると思っている。6 館の体制がこのまま維持されていく方が、やり易いのではないかと考えているので、その思いを込めて書いている。た

だ、効果的効率的な行政運営という視点からいくと、6つの支所にあっても、どんどん縮小していく傾向にあるので、そういう所は政治的な判断があると思うが、今の所は、6館の体制を続けていきたいという書きぶりにしている。

委員

市民活動支援センターで発行している、最新の「*tamtam*」という情報誌の中で、市町村合併をして20年経って、どういうふうに自治協議会が出来てきたかという事を関係者にインタビューをするにあたって、行政に問い合わせたら、その当時の資料は既に無いというか、保管のルールの中で、ある程度処分してしまったという話を聞いて、すごく残念だと思った。合併時の資料が、およそ無くて、そういうのを図書館としてどういうふうに管理できるのかというのは、郷土資料や行政資料を含めどうのように保管をしていけるかという所は研究を始める必要があると思う。

課長

行政文書の保存年限は、項目毎に決まっている。通常の文書であれば5年保存である。その中で、当時の担当なり当時の部署が、この文書については何年保存にするかということを決めている。合併してから20年経っているので、やっぱり残しておいた方が良かったというのはその時になってわかるということもあると思うが、当時の状況がどうだったかということになってしまうのかなと思う。

委員

今、事務局から、今後の6館体制がどういう問題になるかということは、非常に政治的な問題だとお話されたと思うが、このアンケートを読んで、図書館のイメージとしては丹波市が持っているコモンズ、公園または共有地というイメージを持っている。利用されていない方も、利用されている方に関しても非常に厳しい意見がある。特に端的に表現されていた意見では、本屋さんだという言い方をされていて、新しい図書館、公園としてのイメージに変わって来ているのに、従来の本を受け渡しする場所であるという認識である。それを、協議するのがこの協議会なのか、それとも、行政がやられることに対して、追認するのがこの会の趣旨なのか。今、話を聞いていると、これは非常に政治的な問題なので何も言えないということであるが、この協議会は、丹波市の図書館としてどうあるべきなのかということを話し合う場所であると思うが、私たちはその辺をどう考えていったらよいか。

課長

図書館法の中に、図書館協議会の役割が書いてある。図書館長の諮問に対して、協議した結果を答申されるという役割が図書館協議会にはある。今回この図書館の運営方針そのものを考えていこう、根幹を作ろうとしている計画であるので、そこに関しては、図書館の事に対して、思いがすごく強い皆さん、有識者も含めて、また関係者も含めて、民間として、名を連ねていただいているので、そこに関してご意見をいただくという事に対して非常に重いと感じ止めている。それは行政に対して答申される事も同じような考え方とは思いますが、ハード的な整備のことにに関して、ご意見と、それから費用対効果も

考えたり、維持費のことを考えていった時には、やはり市全体で俯瞰してみる必要性があるので、そこは政治的な判断はあるだろうと思う。ただ、6館を全て閉めましょと、そんな話は先ず無いので、継続して体制は作っていきたいという考えであれば、そのような事にまとまっていくだろうと思うし、今回作ろうとしている図書館ビジョンの中では、今後、取り組んでいかなければいけないサービスの一つには、学校との連携という事や、届いていない人に届けていくというあり方が望まれるだろうと思っている。それを実現するには、中央館1館が集中した機能を持つよりも、6館が分散した形で、市民により近いところでお届けをするという方法の方が、効果的、効率的ではないかなという思いでいるので、そのような書き方にしたつもりである。

ただ一方で心配しているのは、丹波市のように6館体制をずっと続けている市はあまりたくさん無いと思う。他の所がどんどん機能集約して行って、一つの大きな図書館を作っている所はあるが、その一方で、有効登録者の数は、市民約6万人に対して6,000人程度なので、たった1割しかいない。丹波市の場合、これまで分館があって、6館をずっと維持してきて、合併してから20年間ずっとやってきたけれども、なかなかそこが全国平均の2割3割にも届いていない。そういう状況があるということは、どこかで根本的に見直さないといけないということがあると思うので、利用者をたくさん獲得するという事が大事ではないかと思う。そういった所のご意見もいただきたいし、6館を維持しながらやっていこうとすると、どういう事がこれからやれるかというのは、ご意見をたくさんいただきたいと考えている。

委員

6館体制という状況があるが、これに対して、アンケート読むと、1割に驚いたという話がある。利用が増えるということは、ほとんどの方の滞在時間が30分以内で、図書館というのは本を借りるだけの場所である。ある意味問題を更に増やしていくような、矛盾しているというか、狭い所に人をもっと入れるのか、ここはいろんな事を考えていかないといけない場所ではないかと思う。また、そういう事がアンケートにたくさん出ているので、ハード面、そして、その公園をどう利用するかというソフト面、例えば、利用時間、丹波市は10時ですね、県立でも、府立でも、9時や9時半という状況です。それから、大阪でしたら、中央と、中之島で、休館日が違います。そういう事も含めてソフト面での利用の仕方がどうあるべきかという事は、たくさん出てくる。その前提で、6館体制を前提にして、どう考えるのか。6館体制でいくという事は、ある意味限界がある。その前提でソフト面の事を考えていかないと駄目だと思っているが、ただ、皆さんがこのアンケートを受けて、どういうふうにお考えになっているかということとは、今後の方針を考えていく一つの前提になっていくのではないかと思います。

会長

事務局側としての提案も含めて今回提示されている素案の中には、深く踏み込んでないことは事実だと思う。しかし、今、政治的なという部分も含めて話があるが、これを読み込んだときに、今の丹波市立図書館の強み、それから、課題というのを、これも分析した上で、今後は進めていく必要があるという所であるが、今日の議論の素案という部分の中では、まずは第一次を見た中で、アンケートをとって、その部分の中で整理

して課題が出てきたという事も含めて、来年、再来年にもう一度基本計画を作っていく必要がある。その中で今日決めてしまうという部分にはならない。大きな項目立てを今回決めていこうとしているのではないと思う。今回の意見は良い意見をいただいていると思うので、それをどういうふうに、次の具体的に積み上げていくかという作業が必要だというご指摘をいただいたと理解しているので、委員の意見を反映させた、今後の図書館のあり方を考えていける、そういう方向に進めて行けたらと思うので、今回、この素案の中で、この部分が、具体的に無いとか、もっとこういうふうに将来を見つめて中央図書館1館にしていくべきだという、今そんなことは書けないという現実が多分理解されていると思うので、その辺の所も含めて、今後、もっと利用しやすい形にするためには、こういうことも考えられるという、その部分まで含めて、展開をしていくのが、今なのか先なのかという話と思うので、事務局の中で、図書館長の判断も当然必要になってくると思うので、それらも含めて、今回の素案としては、この振り返り、また、今の行政の判断という事について、1から3の部分に関しては、具体的にこの辺が抜けているという部分があったら、ご指摘いただけたらと思う。

委員

丹波市は面積が広くて、図書館のあり方も中央図書館のあり方みたいなイメージがある。一極集中ではなく、格差が無いように、それぞれ小さくてもカフェもOKというような公平さの視点も大事だと思う。それによって、小学校との連携も格差をなくすようにする方がよいと思う。

会長

この後、第4章から第6章までの説明をいただいた後、最後の質疑応答の中で全体としてのご意見をいただけたらと思う。

係長

(2) 第2次「丹波市立図書館のあり方」素案について（第3章～第6章）

資料2

会長

今、4章から6章までの説明をいただいた。先ほどの意見も反映させた中で、特に5章のグランドビジョンという部分について、皆さん方のご意見をいただく中で、その課題が明確になってきて、その課題を解決するための取り組みが出来るのではないかなと思うので、ご意見をいただいて、令和7年以降の具体になっていく、大きな柱立てとして、この運営方針の6番まででいいのかというような議論を積み上げていただけたらと思う。

課長

コアメンバー会議の回数も含めた策定経過は一覧表をつけたいと思う。それと、基本理念とか運営方針の中で薄字になっている所、項目が3点ほど書いているが、このままの言葉で書くかどうかは別である。《運営方針1》市民の暮らしや活動に役立つ地域の

拠点としての図書館というふうには書いているが、具体的にはどういう事なのかなとイメージしづらかったらいけないというのがあるので、薄字の所を見てこういう事を言うんだなと想定していただければと思う。

委員

第4章の所で、施設の利用の部分に関して、貸出数と登録者数を書いていたideているが、図書館サポーターとか、子ども司書の登録状況、活動状況に関して出してもらう方が良いと思う。成果や課題も含め、数と活動状況などを簡単にまとめてもらえるといいと思った。続いて、図書館の過去1年の利用状況の文章中に書いてある、「利用しないと回答した人の割合が多かったのは70代80代以上、続いて20代」というのは、実数で見えてしまうと、回答数が多い人が多くなると思うので、割合で見てもらってその割合の多い順に並べてもらう方がいいと思う。

続いて市民ワークショップで出てきた意見の所で、2点目の「サービスや機能」で大事かなと思ったのは、やはり情報発信で、図書館がどんな事をされているのかとかイベントはどんな事をしているのかというのは、世代毎に情報発信をうまくやって欲しいという声があったのと、職員の人材育成や安定雇用の話も、出た意見としては書いていただきたいという思いがある。最後に、課題整理も網羅的だとは思いますが、キーワードとして、学校図書館の支援は、一行追加してもらうか、何かと一緒にその要素も入れてもらった方がいいと思うのと、後半、具体的な施策の方にも関わってくるが、市民協働の図書館運営の必要性、人材育成、雇用とかも入れていただきたいと思う。

課題整理の下に書いてある文章で、分館のことが書いてある。子育て学習センターも併設しているので児童書の貸出数が比較的多いという事であるが、「比較的多い」の意味は何と比較して多いのか、やや抽象的な感じだと思う。比較的多いという表現は、中央館と比べて多いということか。

課長

何かと比較してということではなく、主観的な思いで書いている。

委員

そこは主観で書くともったいないと思う。その主観にあまり間違いは無いと思うが、何かのアンケートによると、こういう傾向が見えましたという書き方がいいと思う。

副会長

これからは学校図書との連携がすごく重要になってくると感じた。学校で、図書館でこういうことが出来るということが、図書館から情報発信、子どもたちに、何か出来る機会だったり、学校から図書館に来て、実際に本を借りたり、図書館はこういう所なんだという様なことを授業でするとか、学校と繋がっていく事で大人になってもその子たちが図書館を利用できるような、繋がりというのがこれから大事だと思う。6館は絶対に維持して欲しい。政治的に色々あるか知らないが。私は6館あるのは全部同じような感じ、広い所、小さい所があるが、それぞれ何か特徴があってもいいんじゃないかと思う。

委員

私も普段、市の施設にいて、休館日が一緒なので、なかなか図書館が利用出来ていない。仕事も6時半に終わるので、平日もなかなか利用出来ないが、例えば、ゆめタウンで本が返せるだけでも、借りに行ける機会が増える。理想はロッカーとかで受け取れたら嬉しいが、ゆめタウンをもう少し活用出来たらいいかなと思っていて、多分、市民ワークショップでもアンケートでもその意見が出ていて、ゆめタウンが図書館とのタッチポイントみたいになると、今利用出来ていない方とか、上手く時間が合わない方の利用が促進できるのかなと思う。理想は、職員がいて、ちょっとした本が借りれたり、そこで過ごせたりする事が一番理想ではあるが、今6館体制の中でプラス新たに拠点を増やすのは結構厳しいと思う。人がたくさん出入りしている場所なので、ゆめタウンで図書館の用がひとつ済むと、かなり図書館が近い存在になると思う。

委員

運営方針に関する事だが、「はじめに」のところで、「こどもまんなか社会」にかなりの部分が割かれているのでそこがターゲットになるのかなと思われるが、そういう意識があるとするなら、その子どものアンケートの結果というのが数値化して全然出て来ていないという所は、アンケート結果も全部これと一緒に公表される訳ではないが、ちょっと課題があるのかなと。今年は市の基本計画がいろんな形で変わって来ているので、学校の方へはたくさんのアンケートが来ている。実際に、中学校2年生、小学校5年生を対象に、基本計画に関わる部分はほとんど取られている。教育基本計画に関しては図書館のことも若干入っていたのではないかなと思うので、そういう所からデータが引けるかもしれないし、無ければ、また新たにアンケートを取ってもらって、反映してもらうような事も必要でないかなと思う。実際ここにはうたってあるが数値化されていないという事はちょっと課題があるかなと思う。

係長

来年度、タブレットを使って、子ども達にアンケートを取るという計画は持っている。

会長

来年、子ども読書計画の策定という大きな課題もあるようなので、そこに今のご意見を載せて、数値化できるようにしていけたらと思う。
この前段に書いてある事は、どういう事だという部分については、今の段階での付け足しは必要だと思う。

委員

市民プラザの本をここの図書館で返せたらいいと思うし、市民プラザではジェンダーとか、自治の本とかがあって、図書館とも被っているような、被っていないような、二つに分かれているので、ややこしいが、それなら図書館にもありますよとか、それなら市民プラザにありますよとかいう連携があったら、同じ丹波市なのにもったいないと思う。

委員

いい方法がある。市民プラザの市民活動支援センターが管理している本と、男女共同参画センターが管理している本はまた別々である。購入予算も別なので、同じように利用するという事になると、いろんなルールを考えないといけないというのが一つある。本がどこにあるかというありかに関しては、市民プラザは「カーリル」という図書の検索を無料で行ってくれる民間のサービスを使っていて、市民プラザにそのQRコードを出しているが、それで検索すると、丹波市の図書館と横断検索が出来るようになっていて、どっちにあるかというのは、すぐわかるようになっていっているので、図書館とも連携して、横断検索ができるようなサービスを活用出来るので、それを見てからお目当ての場所に行ってもらえたら多分すぐ見つかると思う。市民プラザはそれを通して公開していて、蔵書が全部わかる。公共図書館の蔵書も入っているの、横断検索出来るようになっている。学校図書館でもそれを使えば全部出来る。登録が必要だが。どこにどんな本があるかというのがすべて無料で出来るので活用いただけたらと思う。

会長

ここでの書き込みの問題も含めて、生涯学習基本計画が上位にあって、この計画になっていく。本来生涯学習の基本計画の中に、図書の利用のあり方という部分も含めて、住民の皆さんが生涯学習を進めていくきっかけになる1丁目1番地がいわゆる図書館なんだというような位置付けになっていると思う。その辺のところの連携という部分がないと、住民の皆様が図書館だけを利用するだけではなく、SNSや色々な事を利用して生涯学習を展開していくが、実際に公として生涯学習を手助けしていくために、図書館は重要な施設ですという位置付けがしてあるはずであるが、そこが全然出て来ない。だから、幼児から高齢者までの中で、生涯学習をどういう形で展開していくのかという、議論をしてきたものが生涯学習の基本計画で、その中での図書館の位置付けというのを、もっと表に出して来ないと、図書館を市民が利用するという事が、知らないとか、何をやっているかわからないという、広報が足りないという話ではなく、基本的な部分で、行政が、皆さんの税金を使って、こういう物を行っているんだという部分の中で、それは何のためにやっているのかというと、市民の生涯学習を向上させていくためにやっているんですよというような大きな繋がりがあると思う。その辺がわかっているようでわかってない。そこはやっぱり広報していかないといけないと思う。極端な例が、市役所の職員が利用していない。議会の議員が利用していない。自分達が施策や政策を作って、こういう形で予算を使ってやって行きましょう。税金を使ってという部分があるのに、自分らが利用しない。なぜなのかということに議論を持っていけないと、利用数は上がらない。その所も含めて、議員さんや市役所の職員さんが利用しやすい、まずそこから進めていかないと図書館は多分利用されないのだろうと思うし、また、今、細見委員が言われたように、学校との連携の中で、どうやって図書を利用して学びにつなげていくのかという基本的な部分を、もっともっと学校で議論していかないと、大人の中で、生涯学習を展開していくために、なぜ図書館を利用しないのかという部分について、基本に帰って行ったら、当然、税金をどう使うかという議論に繋がっていくんだと思うので、今後の具体の計画の中にもそういう基本的な姿勢の中で入れていく中で、今日暮らしに役立つとかいうのはみんなそういう形で含まれて来ているというふうに理解したら

いいが、そういう具体性が見えてこない。住民の皆さん方の位置に図書館があるということは、大事な事というか、アナウンスしていかないといけない部分ではないかなというふうに僕自身は思っている。

委員

コロナ禍を経て、それ以前の数字が戻ってないと先ほどおっしゃったが、多分戻っていかないと思う。それは何故かというとな皆さんのそれぞれのライフスタイルが変わって来ていると思うので、今までの時間と同じように開いているだけでは結構難しくて、その利用者としてターゲットを狙っていきたい人に対して、本を届けていくとか、近づけていくような仕組みが必要かなと思います。私も以前、岡山で図書館に関わらせていただいた時は、各地域の商店とか病院にご協力いただいて、そこに図書館の本を置かせてもらうみたいなことをやっていました。その地域では、借りる事も出来たが、そういった形で、身近に本がある、図書館の本でなくてもいいと思う。谷川駅のちたん文庫みたいなものとか、ああいったものがどんどん広がって行って、本が身近にある町っていうのが自然と出来てくると、図書館との関わりが市民の方が増えていくかなと思うので、どう出していくかみたいなのが、これから知恵が必要なのかなと感じた。

委員

アンケートで見ていくと、高齢者の方がたくさん借りたり、図書館利用したりという形になっているので、せっかくサポーターの方で配達サービスがあったりして、そこをもっと充実していく。そして、各地域に百歳体操に取り組んで高齢者が集まるサロンがあるので、そういった場所でも図書に関しての情報を伝えていくと、借りたい方はたくさんいらっしゃるのではないかなと思う。図書館の本を廃棄するときに、図書館で無料譲っていますね。あの時にたくさん買っていくのが、高齢者なんです。これ持てますかというぐらい、ダンボールに詰めて帰られますので、普段、自分の余暇の時間に読みたいと思ってらっしゃる。でも図書館まで行けない。でも配達するサービスを知らない方もたくさんいると思うので、そういう方に情報をぜひ伝えていただきたいなと思いますし、いろんなサービスがあるんだよ、こんな方法でも借りられるよとか、そういうのを伝えることが出来るように願っている。

委員

アンケートを見て、つくづく世の中が二極化しているというか、情勢が変わっているとおっしゃったと思うんですけど。コロナやいろんな所で、AIなんかも含めて、このアンケートの自由記述の所を見て余計に思うが、従来私達が図書館に関わっていた時代の人たちの図書館に対する要望と、今の世代の要望も二極化してしまっているなとすごく感じた。静かな図書館、本を読める所というふうに要望されている方が、きっと丹波市の大部分の世代のお年寄りの方とかはそうっておられるんだろうけれども、一方で、もっとまったりゆっくりおしゃべりができて、のんびりできて、ある程度のサロンになるような所というのを希求されている方もいらっしゃると思う。そのあたりの二極化に両方対応していかないといけないのだろうな、という事を図書館のあり方としては思う。特に先ほど会長がおっしゃったみたいに、税金の使い方も含めて、1割の人のた

めに運営しているのかみたいなご意見がありましたね。そうではないだろう、いうところをもっとアピールしないと、生涯学習の観点もそうですけど、なんで本を読むのとか、なんで読書なの、なんで本で調べるのみたいなところの学び方をもっと市民の方達に提供する施設が、一つは、学校が一番大きいかもしれませんが、図書館とか、植野記念美術館とか、そういういろんな施設が担っているというところのアピールをもっとしないと、図書館なり美術館なりそういう所が伸びて来ないんだらうなと感じた。図書館協議会の一員として私に何が出来るかと考えたら、ずっと前から同じことずっと言ってきたが、全然変わってないところがあって、それには人とお金が必要というのは、つくづく思っている。今、自分に何が出来るのかと考えると、一つは二極化の片一方を模索しつつ、今の図書館をどう維持管理するかということを考えるしかない、そこしかないと思った。そうすると次に何が出来るか。一つのポイントは、図書館サポーターさんの動きをもっと自由にもっと広くすると、人の問題がもう少し解決しないかなと思う。先程ゆめタウンの話もされたけど、そこに職員さんがいるなんて今の体制で絶対無理ですよ。そう考えると、サポーターさんの動きをもっと広く自由に考えられるようにすればよいのではないかなと思う。この頃サポーターの数がすごく増えたが、私たちがサポーターをやっていた時よりも、ずっと若い人がずっと自由にサポーターをしてくれている。本の補修一つとっても、びっくりするような世代の人が来てくれているので、もっと自由にサポーターさんが運営に関われるような形がとれないか。そこは丹波篠山市の図書館と丹波市の図書館の違いかなと思う。丹波篠山市はもう少し広いですよ。一つは、人の問題はそれで解決出来るのかなと。お金の問題は私では解決出来ない、そういう事が考えられないのかなというのが一つ。もう一つは、やっぱり広報ですね。これだけいろんな人がいろんなことに関わって、図書館の情報発信をしている。学校は学校で、図書館サポーターが入り、それから予算が増え、司書担当の司書教諭の資格を持っておられる先生も増えたり、それから、その人たちに対する、専門的に活動できるような体制が少しずつ出来た時に、広がらないのは、やっぱり広報というか、さっき言った本が大事やという事も含めて、そこの広げ方が問題なのかなという風に考えていて、そうすると例えばこないだ選挙がありました、選挙の投票率と図書館の利用率を比較したら、やっぱり投票に行っている人の多い町が、図書館に行っている率も高いっていうのがなんとなく見えていて、やっぱり市の方針とか市の運営とか、生涯学習、そういうことに興味を持って読んでおられるような人の方が、選挙に行かれる率が高いのかなと考えていた。広報に対する広報のやり方も含めて、受け取られる市民の方の意識を変えたい、広報の根本的なことを考えたら、単に図書館の広報だけじゃなくて、いろんな市の動きの、福祉とか、不登校に対する支援とか、そんなものの動きも含めて、それが全然市民に伝わってないところ、そこを根本的に考えないといけないのではないかなという事を思ったのが一つである。だから、サポーターの件と、それから広報の仕方。もっと市民に伝わる情報発信の方法は無いかなと、きっとSNSとかの発信だけでは、人口の年代層からして無理だと思う。自治協議会とか、自治会とか、その地域で役員をやっておられる方の人間関係とか、動いてくれる人の繋がりも作っていかないと広がらないかなと思った。それともう一つは、郷土資料の保管について、図書館の大きな任務に郷土の資料を失わせないという任務があると思うので、私もこないだからちょっと調べ物があって、あちこちで調べているんですけど、郷土の資料がコロナ以降極端に無くなってい

る。郷土資料の保管場所を図書館がすべて担うかどうかは別として、そういうふうには考えないと、これは喫緊の課題になっていると感じるので、そのあたりも考えていかなければと思った。

委員

第6章の推進体制はすごく大事と思っていて、今、図書館協議会がありますが、ここに入るっていうのは相当市民の方でも、狭き門だと思うので、やはり、今年やった市民ワークショップはすごくいい雰囲気だった。市民の方、いろんな年代の方や職員の方も交えて、こんな図書館があったいいよねという話ができて、どの方もみんな前向きに図書館の可能性を感じながらお話が出来たので、ああいった場を年に1回ぐらいはやって欲しいなというのは、個人的な思いでもあるし、また、既にサポーターさんや、子ども司書がいらっしゃる中で、何かただ作業して終わりじゃなくて、何かみんなでこう図書館について語り合うみたいな会をする事によって、興味ある人はやっぱり来るきっかけになるとは思う。それだけで繋がりが新たに生まれてくると思うので、それが実現できるかどうかは別だが、思いを語り合うということがすごく大事だし、図書館のファンが増えていくと思うので、そういう機会をもし推進体制に書けるのであれば、ぜひ入れていただきたいなと思った。

会長

特に6章のところでは推進体制の中で、今の段階では図書館協議会だけしか上がっていないので、先ほどありましたサポーターの所とか、子ども司書とかという形の中で、町挙げて推進体制を作っていく形というのが、図書館に関わっているすべてのボランティアも含めて出していけるような形が望ましいかなというふうに思うので、ここは膨らましてもらえたらというふうに思う。皆さんの意見が出尽くしたとは思わないが、また今後の会議の中でも、もう1回、1.5回ぐらいは、議論をする機会が出来てくると思うので、今日のところは時間の関係もあり、こういう形にしていきたいというふうに思う。その他のところでまた素案にかける委員さんの意見を書く用紙も配られているようですので、この後、説明いただいて終わりたいと思う。

課長

図書館ビジョンと名前を変えてやっていこうとしている。先ほど会長からお話があったように、来年度は、第4次の読書活動推進計画を策定をする年度になっていて、基本的にはこのビジョンに基づいた事を、基本に据えながら、来年度の計画作りに移行していきたいと思っている。そうした時に、子どもの事だけで良いのかなというのもあるので、できれば図書館全体の基本計画というものにしていきたいと考えており、子ども読書活動推進計画を包含した形での図書館基本計画を、来年のこのビジョンに基づいて作っていきなと考えている。ということは、ここであまり具体的にこんなことやりますという所まで書いていませんので、特にこの運営方針の中身、今日も宅配をさせていただいたとか、市民プラザを活用したらどうかとかいうことで具体的なことが今後出てくるかと思うので、そういった事を含めた図書館基本計画というものを来年度策定しようかなというふうに思っている。それが出来ていくと、今度それが、実際に運営として

出来たかどうかということを進捗管理しているところであるが、その中で、策定委員会というものを来年度作って、その計画を押し上げていきたいと考えているが、協議会の委員さんが、この策定委員さんにも兼務をいただいて、そこに何人かの公募委員さんも入っていただいて、来年度その計画作りをお世話になりたいなと考えている。来年度、一応5回程度会をしようかなと思っている。中には、視察もしようかなと思っている。その策定計画を作っていただいたものに基づいて、この協議会が進捗管理をしていくという流れができれば一番いいかなと思うので、同じメンバーでお世話になりたいと思う。

課長

また改めてお願いをさせていただきたいと思う。今後、今日ご意見いただいたものに関しては事務局の方で取りまとめをして、出来上がりが今年度末ということになるが、通常の図書館協議会が2月に定例でやっていたものがあるので、その場で、このように修正をしましたということは改めてお見せしようかなというふうに思っている。今日、ご発言がなかなか全てのことを語りつくせていないと思うので、自由に意見を記載していただくような用紙をお配りしておりますので、ご意見等があればお寄せいただきたいと思います。メールでもFAXでも、言葉でもよいので、図書館に提出いただきたいと思います。1月19日までに提出をお願いしたい。

係長

年明け13日に市民ワークショップをする。そのチラシも机の上に置いている。そこでいただいたご意見や、また委員さんからご意見いただいた分があれば、それも反映させて2月の図書館協議会に出したいと思う。

会長

閉会の挨拶を副会長からお願いします。

副会長

たくさんの意見が出た。アンケートの中からはいろんな課題が見えてこれからどうしていったらいいのかなと思う。情報の発信の仕方から年代によって全然違うし、本当にどうしていったらいいのだろうかというふうに私も聞きながら思ったが、私は、読み聞かせのグループを子育て学習センターや市民プラザでやっているの、そういった所でも、図書館はこういうことが出来るよみたいなことや、図書館の魅力もお話していったりしながら、みんなと連携しながら、生活の中で、図書館がすごく身近なもので、みんなが気軽に利用出来る、そういう図書館にこれからはなっていけるように、皆さんもいろいろご意見をいただきながらしていきたいと思う。